

第1回 河内長野市学校給食のあり方検討委員会 議事要旨

日 時	令和3年2月26日（金）午後2時～
場 所	市役所8階802会議室
出 席 者	委員：車谷委員、松原委員、上代委員、室賀委員、宮阪委員、井上委員、 高出委員、嶋田委員、山口委員 事務局：教育委員会事務局職員 傍聴者：10名
案 件 等	1.教育長あいさつ 2.委嘱状の交付 3.会長・副会長選出 4.諮問書交付 5.議題 ・①学校給食の定義や実施状況 ・②河内長野市学校給食の現状と課題 ・③検討委員会の開催スケジュールと協議内容 6.その他
資 料	(1) 第1回検討委員会次第 (2) 資料01：学校給食の定義や実施状況 (3) 資料02：河内長野市学校給食の現状と課題 (4) 資料03：検討委員会スケジュールと協議内容
会 議 内 容	
1. 教育長挨拶 2. 委嘱状の交付 3. 会長・副会長選出 ○事務局 《車谷委員を会長に推薦、上代委員を副会長に推薦》 ○委員全員 《同意》 4. 諮問書交付 5. 議題 ① <u>学校給食の定義や実施状況について</u> 【資料1を基に事務局が説明】 ② <u>河内長野市学校給食の現状と課題について</u> 【資料2を基に事務局が説明】 ○車谷会長 学校給食の定義や河内長野市の学校給食の現状をアンケート内容も含めまして詳細にご説明をいただきました。今の内容を受けて、これ	

から質疑応答に移らせていただきたいと思います。

○上代副会長 和泉市出身なので、中学校のときに給食を食べて育ったので、教員として河内長野に参ったときに、給食がないと思ってびっくりした経験があります。先ほど歴史的なところをご説明いただきましたが、今まで河内長野市において中学校で給食を実施していなかったのはどういった理由があるのか、お伺いしたいと思います。

○事務局 学校給食につきましては、学校給食法で、適切な学校給食の実施に努めるという努力義務という位置づけでございます。実施を義務化したものではなくて、地方自治体の実情に応じて実施するという表現になっております。一方で、学校給食は、先ほどご説明もさせていただきましたように、食育の生きた教材となるように努力をなささいというようにこともうたわれております。

本市では、これまで財政面で、近隣市に比べて給食そのものの実施が遅れてきたというような実情がございます。小学校での給食も、昭和59年からの実施という形になっております。さらには、当時大阪府下では中学校で給食を実施している自治体も少数でした。そういういきさつもございまして、本市での中学校での実施は当初見送られた経過がございます。さらに、平成22年に中学校での給食制度導入を検討した際に、当時の検討委員会で現行の選択制給食を採択されたというような経過もございまして、現在に至っているというところでございます。

○車谷会長 そのような状況の中で始まったというお話もしていただきました。

○松原委員 これまでの経緯についてはよく分かりました。財政面とか、あるいは法令上考えたときに絶対に全員給食しなければいけないというわけではないということは分かりました。ただ、中学校に勤めている立場上考えさせていただきますと、選択制給食というので、保護者の作っていただける手作り弁当の機会が残されるということで、よい面もあるかと思えます。反面、保護者の負担とかを考えると、全員給食のよさもあるのかなと思っています。そのことについて、もう少し詳しくお話しいただけたらと思います。

○車谷会長 現状の説明をもう少しということではよろしいですか。事務局、どうでしょうか。

○事務局

中学校給食につきましては、資料にもございますとおり、平成23年から4年間をかけて、ランチボックス形式、選択制給食ということで実施をしてまいりました。当初の目標につきましては、大阪府から補助金をいただいていた関係もございまして、35%という率で設定をしていたのですが、その率にはなかなか届きませんで、先ほど申し上げましたように、現状5%を切るような喫食率という形になっております。センターのほうも、アンケートの結果を分析しまして、温かいご飯であるとか、温かいスープ類も提供させていただいているのですが、なかなか喫食率が上がらないというのが現状でございます。

一方で、ご家庭で弁当を作ることが大変というような声も届いております。そういうご家庭もさらに増えてきているのではなかろうかと思えます。このコロナ禍によりまして、社会情勢が一段と不安定になってきておりますことから、これからは保護者様のご意見、ご要望は一層高まってくるのではないかという思いではございます。先ほどの繰り返しになりますが、他の自治体でも、選択制であったところが全員給食の方向で動き出しているというようなことも聞き及んでおりますので、そういう現状を鑑みて、河内長野でも考える時期に来ているのではないかと考えている次第でございます。

○山口委員

3人の子どもを育てている母親なのですが、私は全員給食がいいと思っています、中学校の子どもたちにも小学校で食べていたみたいに、同じものを安心してみんなと一緒に食べられるというのを希望しています。

資料の6ページに、大阪は民間調理がすごく多いとなっているのですが、文科省が発表しているデータでは、全国的に見ると大阪だけが74.1%と多くなっていて、全国的には12.1%ととても低いです。全国的に見ると、大阪は論外だと思っているので、デリバリーはあまり良くないのではないかと思います。全員給食をしたいと思って、ここにも参加させてもらっています。

○井上委員

私も、2人の子どもを持つ親ですが、上はまだ小学生で、今給食をすごく楽しみに毎日学校に行っている状態で、中学校へ行っても、栄養をすごく考えられている給食をみんなで食べてほしいなと思います。今、河内長野市と枚方市が選択制でセンター方式であると思うのですが、例えば全員給食をした岸和田市とか大阪狭山市で、全員給食にしてよかったとか、やっぱり選択制がよかったというアンケートはありますか。あれば教えてほしい。

○事務局	今手元にはございません。少し調べてみて、お示しできるものがあればお示ししたいと思います。
○車谷会長	そういう結果がありましたら、次回以降に情報提供していただけたらと思いますので、よろしくお願いします。 今お二方の保護者の声を聞かせていただきました。それ以外の委員の方……。
○嶋田委員	今日の式次第ですと、検討委員会の開催スケジュールについての説明は後ほどということだったと思うのですが、最後についているスケジュールの資料を先に見せていただくと、選択制と全員給食の方向性について議論するという機会は今日だけですか。
○事務局	開催期間も限られておりますので、1回の会議をできるだけ有意義にしたいと思ひまして、今回で方向性だけは確認していただければと考えております。
○嶋田委員	そうしましたら、今日はこれを決めたい、次はこれをしたいというのをあらかじめ示していただかないと、例えば全員給食か選択制かの議論については今日だけということなら、それを認識していないと意見を言いそびれる可能性もありますので、スケジュールを説明してもらっていいですか。
【資料3を基に事務局が説明】	
○嶋田委員	今日、主に私たちが議論しなければいけないのは3番の選択制か全員給食かという話になるかと思うのですが、うちの娘は去年まで中学生で、おいしいまずいは別として、給食を選択制で取ったことがあるらしいのですが、取りに行って、帰ってきて、食べ始めるころには、お弁当の子は食べ終わって、校庭に遊びに出ます。みんなが遊びに出ていくのを横目で見ながら給食を食べ始めます。これが嫌だと言っていました。アンケートで、中学校の生徒自身は弁当のほうが良いと言っている子が大多数だという理由は、役所では何かつかんでいますか。
○事務局	アンケートの結果にもろもろ書かせていただいているのですが、今嶋田委員がおっしゃったように時間をとられるというところも、嫌だという理由の一つだと思います。それに、多感な年ごろですので、ほかの方と違うお弁当を自分だけが食べているというところについても

抵抗があるという思いはございます。我々が喫食率が上がらない大きな理由になったと思っていた冷たさ、ここについて対応したにもかかわらず、大きな改善につながらなかったということを考えますと、我々が計り知れないような理由もあると思います。ただ、大きな理由として、時間がかかるとか、取りに行くのが面倒くさい、持っていくのも面倒くさいというところも大きな原因の一つではないかと考えております。

○嶋田委員

給食を嫌がる理由に、味覚異常な子どもが最近出ていると聞くので、給食でバランスのいい食事を与えられると味が薄くてまずく感じるということで嫌がっているのもあるのかなと思えば、適正な塩分量を毎日感じることにによって、味覚異常を正常なほうに持っていけるかもしれないといういい面もあります。それは家庭の責任の範囲に近いと思ったりもするのですが、僕はどちらかというと選択制でいいと実は思っています。理由は、SNSが出てきて、ほとんどの子がスマートフォンを持って、対面じゃなくて、メールのやりとりでコミュニケーションをするようになった。コロナで、テレワークで、人が集って、対面で議論する場も多分これから減ってくるのでしょう。そのときに、社会に出たときに一番求められるのはコミュニケーション能力だと思います。そのコミュニケーション能力を学校の昼休みに培っている可能性があるとしたら、そこを全員給食という形で毀損するおそれはないのか。そこに対しての検証とか研究とか、全員給食にしたら、コミュニケーション能力を培う時間が減って、その挙げ句どんな子どもに育つのかという研究をされているような資料とかデータをもしお持ちだったら教えてほしいです。

○事務局

嶋田委員のご質問については、実際そういう調査までは聞き及んでおりません。全員給食にすることで、子どもたちの昼休みを奪ってしまうとか、時間が短くなるとか、全員給食になったとしても、1日の子どもたちの活動時間については一律何かしらの見直しが必要になってくるだろうとは思っております。そういうところは、こちらも実際に他市のやっているところをしっかりと調査をしていかなければいけないと思っておりますので、次回以降で何かいいお示しできるものがあればということで、研究してまいりたいと思っております。

○嶋田委員

あと、全員給食にした場合の行政的なお金の負担は増えると思います。各学校で作るというのを理想としていたら、あちこちの学校に給食室を造って、さっきの案内で示していただいたような衛生管

理とか、各学校で器具の使い分けとか、センターだからこそできている管理が、各校で厳密にチェックができるのでしょうか。造るスペースは、テニスコートをつぶすのですか、野球部の練習スペースを減らして、グラウンドに造るのですか。それを造るお金はどれぐらいかかるのですか。安く上げるように造ったおかげで、将来的なメンテナンスコストが高くつくのだったら、メンテナンスコストがなるべくかからないように、最初にしっかり造ってほしい。そうしてしっかり造った場合の建設コストと安普請で造った場合の建設コストとランニングコスト、要はライフサイクルコストの部分を含めて既にご検討いただいているのか。財政的には全員給食でやった場合はどうなのか。

政治のことは僕も余り分らないのですが、国からおりてくる交付金は、住民の規模が一緒でも、各行政で差があるのですか。例えば、同じ10万人程度の町で、この町はこういう事情があるので、国や府から少し多く入ってくるとか、もし差があるのだったら、河内長野市は全国平均で見ると多いほうなのか、さっき言うてた和泉市と比べて、もし河内長野は交付金が少ない町だとしたら、和泉みたいに全員給食なんて高望みかもしれません。そのあたりのことも含めて情報をお示しいただかないことには、気持ちとして全員給食にしたらお母さんが楽だと思うが、学校も時間配分で子どものコミュニケーション能力が阻害されることを補完するような取組をしてもらわないといけないし、それをセットでお示しをいただかないことには、軽々に僕は全員給食に賛成とは言えない。情報が不足していると思います。その辺、出ているのであればお願いします。

○車谷会長

嶋田委員の、保護者の立場もあり、そういうお気持ちもよく分かりますし、確かにに関連する部分だと思いますので、データとかそういうものをもう少しお示しいただいた上で判断したいという気持ちも大変よく分かります。ただ、本来2回目以降にそのあたりを説明していただくといった計画になっておりますので、今すぐ事務局にそういうことを求めても難しいのではないかと思います。今事務局も聞いておりますので、そういうあたりを受け止めてもらえんと思いますので、資料が用意できた時点でまたご紹介していただけるとと思います。

○嶋田委員

次回以降で結構ですが、ならばこの検討委員会として、今日選択制と全員給食の方向性をある程度決めるというご依頼だったと思うのですが、情報不足の中で決められるのかという話になります。その辺、会長はどうお考えですか。

○車谷会長

限られた会議の中で方向性を出していくということで、びしっと一本に決まっていくということはなかなか難しいと思います。ただ、私、皆さんのご意見を取りまとめる立場になりますので、どういうご意見が今あるのか、どういう思いを持っているのかということは今出させていただいております、先ほど保護者の立場でそういうご意見もありました。今日まだご発言していただいている方もいらっしゃいますので、その辺も含めて意見を出していただいて、全体の意見としてはどういう意見が多いのかというのを取りまとめていこうと思っております。私としては今そこまでしか言えませんので、その辺のご理解でよろしいですか。

○嶋田委員

現時点で全員がいいのか、選択がいいのかということで多数決的に決めるというよりも、山口さんのお話で、朝の忙しい時間とかお母さんの実態を聞かせていただいて、また学校の先生とかのご意見も聞かせていただいて、最終的にそれぞれどうなのかということになっていけば、それで異議ないと思います。

○宮阪委員

長野中学校の家庭科を担当しています宮阪です。さっき、給食を取りに行ったときに、食べ終わるのが遅くなってという話があったのですが、何かの拍子でそうなったのかもしれないですが、取りに行く時間が分かっているの、基本的には全員そろって「いただきます」なんです。栄養のこととか理論的に考えたら、全員で一斉に栄養のバランスのいいものを食べるにこしたことはないと思うのですが、現状、生徒から給食がいいとかいうことも聞いたことがないし、どうしてこんな話になるのだろうと思いながらここへも来させてもらっています。

昔、生徒たちにアンケートをとったとき、1年生は大多数が弁当と回答しました。それは、小学校で6年間ずっと食べてきたので、自分の好きなもの、家族が作ってくれたもの、自立している子どもは自分で作ってきますし、おうちの人作ってくれたものを入れてくる。それに関しては、感謝の気持ちを言わないとあかんでとか、洗うだけでもええでとか、かばんの中へ入れといたらあかんでとか、話題が広がったりします。2年生になると、少し給食が懐かしいのもあって、給食もよかったなという意見が出ます。3年生になったら、弁当を持つてくるのが重たいから給食でもいいという意見が出たりしますが、大体はお弁当です。

中学生の場合、体型が見上げるような大きい男子から、食の細い女子まで、多岐にわたるので、量的なこともどうかと思います。それか

ら、中学は時間が忙しいです。昼食の設定が15分で、その後30分休憩という遊び時間です。予鈴があって、5分早めに帰ってくるのですが、今なんかも、ありがたいことに、教室に残っていないぐらい外でボール遊びしたりしていて、急いで外に出ていく。外では楽しく遊んでくれています。その中で、もし全体の給食が入ってくると、先ほどもおっしゃっていましたが、時間帯はどうでしょうか。後へずらせば、クラブ活動があります。運動部も、放課後ある一定の時間保障してあげたいし、長中の場合は校区が広いので、冬場はとても早く終わらないといけません。楽しみであるクラブ活動にも影響が出るということで、いろんなことを考えたら、私たちからすると、今の感じがいいというのがあります。

私も子どもを1人育てていますが、子どもが行っているときは毎朝お弁当を作っていました。今成長して、弁当が要らなくなったら、自分は弁当を頼んだりしています。今振り返って、子どものためにはできたなと思うところです。もちろん、朝1分でもゆっくり寝たいとか、ほかにやることがいっぱいあるという気持ちも分かるのですが、その限られた時間は弁当を作っていただけると、そういうところで子どもに伝わる部分もあったりすると思います。保護者さんの意見とか、栄養のこととかを思って、全体の給食もいいと思いながらも、現状はそういう感じです。

○高出委員

千代田中学に2人の娘を今通わせています。2人とも毎日給食弁当のお世話になっています。上の子のときには「ずっと予約」というボタンがなかったので、毎月予約するのがとても大変で、忘れないかというので、だんなどと一緒に、間に合うように頑張っていました。今はすごく楽になりました。ご飯も温かくなり、スープジャーで熱々になって、すごく喜んでます。特に上の子は冷たいご飯からスタートしたので、最高だと。毎日取っている子はクラスに2人しかいなくて、たまにとっている子が数人で、給食を広げたら、わあ、おいしそうだと集まって、頂戴、頂戴と、コロナになる前はそういうことがよくあって、コミュニケーションに関してはいけていたと思います。

私の主人は香川出身なので、中学校から普通に給食があったし、私は医療職なので、実習生をいっぱい教えるのですが、今回私が選ばれたことで、学生さんにいろいろ聞いてみたら、河内長野で育った子とか、大阪で育った子たちは、みんなで食べる給食が羨ましいという意見がありました。

看護師さんにも聞いたら、当直などで厳しく、朝帰れず弁当を作れないから、河内長野も給食になってくれたらすごく助かるという意見

がありました。作りたくても作れない立場の親もいるというのを分かってほしいのと、私、いろんな人に100人以上聞いたのですが、私の周りは働いている女性が多いからかもしれないが、小学校みたいな給食を望んでいると言っていました。共働きといえども、お弁当作りはやっぱり女性のほうに来ます。私のだんなも全く作ったことがありませんので、そういう立場でも全員給食を私は希望します。

給食で取り残されるということではなくて、みんながそろってから「いただきます」だと言っていました。最初は、ばか扱いされることも多々あったと言っていました。下の子は特に強いので、こんなにおいしいんやでとか言ったら、周りがいいな、いいなと。中学生になると、給食を頼むのが恥ずかしいみたいで、選択制にしたら頼みにくいというのものもあるかもしれません。親御さんたちは、子どもが嫌いなものを食べるのが嫌やからお弁当がいいと言ったら、親は子どものことが一番大切なので、お弁当を頑張って作ろうかという気持ちになると思います。だけど、中には作れない親たちもいるということを知っていてほしいと思います。

○車谷会長

弁当を作るのが難しい働く親御さんの気持ちも代弁していただいたような気がします。お聞きしていましたが、今の選択制がよいという意見もあるし、全員給食にしてもらったというのと、今聞く範囲では両方の意見があるのではないかと思います。

現状としては、子どもはどんなふうに思っているのでしょうか。事務局、そういう調査とかは何か紹介できるものはありますか。

○事務局

先ほど資料の中でもご説明させていただきましたアンケートの結果がまさしく子どもさんの思いというのを反映されていると思います。

15ページからのアンケートは平成30年に実施をしたものでございます。ここでは、9割の子どもさんは現状のいろいろ選択ができる方式がいいというようなご意見だったと思います。

○松原委員

私、今河内長野の西中学校に勤めさせていただいているのですが、本校では今選択制給食ということで、3つのパターンがあります。1つは、給食センターからいただけるお弁当を半月ぐらい前に申し込むという形、もう1つは、近くのパン屋さんに来ていただいてという形のもので、それは急遽お母さんがお弁当を作れないという場合も対応できるように、当日申し込みで食べられるという状況になっています。もう1つは、保護者の方に作っていただくようなお弁当ということで。うちの息子も、同じようなシステムの市のところに行っていたの

ですが、買い物に行ったときとかに親子の会話が生まれるし、いいかなという面もあります。現状、小学校は全員給食なので、小学校で給食のシステムに慣れているということを考えると、中学校の給食をスタートするのに違和感はないと思います。一回中学1年でお弁当に慣れると、そこからもう1回給食に戻るときに、違和感を持つ子もいるかも知れない。

先ほど宮阪委員がおっしゃっていたように、中学校のスケジュール感的には大変厳しい状態があります。今もし全員給食となると、昼休みに子どもたちが何か相談したいときに、先生が給食の仕事に携わることによって、話を聞く時間がとれなかったりします。ご存じのとおり、1時間目から6時間目まで授業がびっしり詰まっています。放課後は部活動、会議があります。ですので、子どもたちの話を聞けるというのは、現状でいうと、昼休みとかかが非常に貴重な時間になるのです。向こうから言ってこなくても、表情の変化とかで、聞くタイミングは昼休みが非常に重要になってきます。中学生だから、自分たちでかなりやるのですが、安全面、衛生面のこともありますので、教員が全くつかないということはいえないと思います。そうなってくると、教員が子どもと向き合う時間がどうしても限られてしまって、いじめとかの察知が遅れてしまうことや、安全確認が我々義務としてあるので、そういうあたりも厳しくなっていると思います。

全員給食を望まれる保護者の気持ちも非常によく分かる。その反面、学校現場として、これによって昼休みに大きな事故があったり、子どもの悩んでいるサインを見逃してしまったり、あるいは貴重な放課後の部活動の時間がなくなってしまって、思ったような活動ができなくなったりなど、必ずしもプラス面だけではなくて、マイナス面もあるということを考えながら進めていく必要があると感じています。

○車谷会長 現場の校長先生として感じられる課題なんかも上げていただいたと思います。

○室賀委員 南花台中学校に勤めています室賀と申します。給食について、独り暮らしをしていたときは、自分で弁当を作っていたので、大変でした。現状お弁当を作ってもらっているので、パートナーに対しては申し訳ないというか、ありがたい気持ちでいっぱいです。同じように、子どもたちも、少し申し訳ないなと思っている部分を持っていて、それが感謝につながっていて、さっきからご意見が出ているように、親としてできることというのが子どもたちに伝わっている部分も少なからずあるというのを感じています。ただ、僕の立場からいうと、やっぱり

申し訳なさが立つので、全員給食だったらその辺の負担はかけずに済むというのはすごく感じています。

全員給食になったとして、さっきから出ていた時間的な問題というのも結構大きいと思っています。冬場の部活動は日照時間に合わせて活動が終わるので、実質1時間もできないような部活が、給食が入ってきたら、恐らく40分、30分ぐらいの時間帯でしか部活動ができない。今部活動のあり方についても世の中ではいろいろ言われていまして、その辺も考えていかなければいけない点だとは思いますが、現状、部活動は子どもたちにとって充実の場なので、その確保はしてあげたい気持ちもあります。

子どもたちも、選択制の弁当を頼んでいて、それが温かくなっておいしいという意見は正直出ています。ただ、そもそも冷たいお弁当を頼んでいた子が、温かくなってよかったと思っているわけで、頼んでいなかった子が頼み出していないことが問題だと思います。なので、選択給食のPRを深めていくという視点も必要で、もし選択制でいくのであれば、選択制の良さを子どもたちにもう少し知らせてあげれば増えると思う部分があります。子どもたちのアンケートの結果などを見ても、実質頼みにくさなどの意見もたくさん出ているので、その辺を解決していく目線を持てば、いい方向になっていく気がします。

○車谷会長 現場の教員の立場として、現状を踏まえて意見を頂戴いたしました。中学校で、給食指導、食事指導というのはありますか。

○室賀委員 テーブルのマナーとかですね。立ち歩くなとか、この時間まではちゃんと食べて、みんなで手を合わせて終わらめしうと、そういうレベルです。

○車谷会長 そういう基本的なことだけはされるのですね。様々な意見が出てきたと思いますが、今のご意見に関連して、食育の観点から見て、全員給食することでどんなメリットがあるのか。

○事務局 学習指導要領というのがありまして、それでは、学校における食育というのは全ての教育活動において適切に行うこととされております。そのため、給食の献立は、生きた教材になるよう私たちは心がけて毎月作成しております。現在、小学校は全員給食ですが、例えば給食に使用している食品を活用して食料の生産の勉強とか、流通、消費について理解させたり、献立を活用して、食品の種類や特徴、栄養のバランスのとれた食事などを知らせるという大きな役割があります。

ほかにも、季節の食べ物などや郷土食、行事食などを提供するなど、食事という実体験を通して食に関する知識理解、関心などを深めることができていると思っております。全員が同じものを食べるということで、給食を食の指導に活用しやすいというメリットはあると思います。

先日私が体験した話を紹介させていただきます。「いただきますの向こう側」という冊子を全小学校と中学校の選択されている方にお配りしたのです。ある小学校で、生活科の勉強で、働く人という単元がありますので、そこで私が、給食センターではこういうことをしていますという授業をさせていただきました。その中で、「いただきますの向こう側」の話も併せて紹介させていただきました。2週間ぐらいたって、また同じクラスに入ったときに、一人の児童が前に出てきて、「食べ物を残すとごみになります。ごみが増えると地球温暖化になって、東京が海に沈んでしまうかもしれません。子ども温暖化が進むと、北極の氷が溶けて、ホッキョクグマも死んでしまうかもしれません。皆さん、給食は残さず食べましょう。」と発表してくれました。私、そのときにすごく感動して、後で担任の先生から聞くと、あの授業の後、ご家庭に本を持って帰って、こんな勉強をしたということをおうちでお話したそうです。その結果、みんなの前でどうしても言いたいということで、発表してくれたそうです。すばらしいご家庭だということとともに、給食ってやっぱりすごくいい面があると思った次第です。

○車谷会長

栄養教諭の立場で、小学校を栄養指導で回ってはるエピソードも聞かせていただきました。食べるということを通して学ばせるという時間にもなっているということで、給食の本来のあり方みたいなものでいい実践をされていると思って、私も感激しながら聞かせてもらいました。中学校にも、食についてそういうことができるようになってきたらいいと思います。

○上代副会長

私、ずっと中学校に勤めていまして、今年初めて小学校に勤めるようになって、今までと随分感覚が違うと思うところがあります。給食がその1つで、給食センターからいただいているかと思いますが、毎日、今日の食材、栄養化について一言メッセージみたいに印刷されたものがあって、それを放送委員会の子がお昼の放送のときに言うとか、教室に貼ってあって、先生が少し言ってみるとか、日々の食育を実践しているということを今年初めて知りました。

中学校でいるときに、選択制になる前のことですが、おうちの事情で3年間パンを食べ続けた子どもを受け持ったことがあります。子ど

も選択制になった後も、中学校の選択制の場合先にお金を払わないと給食がやってこないということで、本当に困っていてしんどい思いをしている子どもにとっては、全員給食というのが救いになると思います。

あと、中学校にいるときは、給食当番を絶対サボるという思いがあったのですが、今小学校で1年生から6年生まで見ていまして、小さい1年生でも、6年生に手伝ってもらって、1学期の終わりには立派にやるようになるのです。6年生がそのままずっと中学1年生になったら、給食当番もそんなに心配することはないと今は思えるようになっています。

私も、今市内の中学校に通っている娘がいるのですが、お弁当を一応作っています。しかし、時間的にも私の技量的にもどうしようもなく、今少し悩んでいるところでもあります。

いろんな立場で、全員給食だったらラッキーと思う子が多いというか、しんどい思いをしている子にとってはそういうこともあると思います。

○車谷会長

それぞれの家庭環境や、子どもの置かれている状況、3年間パンを買って食べていたというのは心が痛みます。河内長野市は比較的豊かな市と感じますが、私、以前勤務していたところはとても厳しい状況のところでしたので、確かに食べてこられないという子どももいます。今子どもの貧困や食の貧困という言葉もあるように、そういう現状も入れながらご意見を出していただけたと思います。

今ご意見を聞かせていただく中で、全員給食にぜひしてほしいというご意見もありました。一方、今の選択制のよさもあるというふうなこともありました。例えば、お弁当の意味についても意見が出されております。今ここでこの方向でいきましょうと決め切るのは難しいと思っております。ただ、この検討委員会が設置された目的は、方向性をきちっと作っていくということです。先ほどもありましたように、河内長野市の置かれている財政状況や、新たに何かする場合のいろんな財政状況など、そのあたりも含めてこれから多分出てこようかと思えます。その辺は、幾ら理想を言ったとしても、できないものはできないだろうし、子どもたちの置かれている現状や社会の現状、その辺も加味しながらどういう方向がいいかというあたりをきちっと考えていくのが、方向性を見つけ出していくというこの委員会の役割だと思っております。

いろんな意見が出されて、これを今日まとめてこうしようということとはなかなか難しいかと思いますが、両方の考え方が今あることが分

かりました。全員給食をしてほしいという声は、親の立場、保護者の立場から出されていたということも感じていた次第でございます。それから、現場の先生方から出された意見の中にいろんな側面が見えてきたところもあると思います。そのあたりは、全員給食にするならばどんなふうに解決していくのかという新たな課題になると思います。そんなところを今後、現場の先生方がいらっしゃいますので、いろんなアイデアを出していくことによって新たな展開が生まれてくるのではないかと私自身は思っております。

○嶋田委員

今委員長が、全員給食に向けて進めていく上での問題点は何かとおっしゃったのですが、反対に、今の選択制が抱えている問題点をどう解決していくかということについても議論が要ると思います。喫食率があまりにも少ないので、取っている子が珍しくて、ひょっとしたらそれがいじめられるネタになっていないのか。であるならば、喫食率を例えば40%に上げていくという努力をしたときに、そういういじめみたいな懸念は消えていくと思います。来月の月初めはみんなで給食を食べましょうという日を設けていますか。

○松原委員

現状で、そういった取り組みは、残念ながらできていません。ただ、うちの学校の場合は、今年度、PTAの会のときに給食の現状を説明させていただきました。実は、学校長というのは、給食をあらかじめ食べるということになっています。万が一何か問題点があったときに、子どもが食べる前に察知するということで、そういう形になっているのですが、食べている中で、大きく2つの変化がありました。1つ目の変化が、ご飯が温かくなった日で、このときは声を上げました。もう1回変化があったのは、温かいおかずを食べさせていただけるようになったときで、ちょうど給食センターで会議があったので、お礼を言いに行きました。それぐらいうれしかった日です。

子どもたちは、さっき室賀委員がおっしゃっていたように、前と一緒にだと思っているところがあります。だから、我々ももう少しPR活動をしていく必要があります。PTAの方に食べていただく機会をうちの学校として持ったり、あるいは、子どもたちにも、生徒会とか学級委員、全員でなくても代表者でもいいので、食べる日を設けて、どうやったと校長室で話をしてもいいと思っていますので、今のご意見を参考にさせていただいて、いろいろトライしてみたいと思います。

○嶋田委員

喫食率が各校何%ぐらいまで上がったら、今の給食センターでは対応できなくなるのですか。

○事務局

今スープジャーの個数を200用意しております。個人的な目標値では、大体8%ぐらいの喫食率で200ぐらい、実際には今150ぐらいのオーダーでいただいているのですが、これが200を超えるオーダーになってくると、調理場が大変になってきます。実際のところ、今の調理室のスペースであれば、200、250というようなキャパになってくると、調理も配送も大変になってくるとというのが現実です。

ただ、それが上がってくれば、当然選択制で全員に食べていただきたいので、何か工夫して対応を考えていきたいと思いますが、現実的には250というオーダーになってくるとかなりしんどい部分は出てまいります。

○車谷会長

時間が詰まってまいりましたので、今日は皆さんに意見をしっかりとっていただくということで、両方のいろんな意見が出てきたのではないかと考えております。本来でしたら、ここで方向性を定めていく予定まであったのですが、今の状況では判断しにくいという意見もございました。ただ、先ほどありましたように、要望等もある、アンケート状況等もあるということと、現場の課題も若干出てきているということで、その辺も含めまして、今後第2回目に向けて考えていく必要があるのではないかと考えました。ただ、何もないまま2回目、3回目を迎えることはできませんので、それぞれの委員の中で方向性も含めて考えていただきたいと思います。

それから、第2回目以降からいろんな材料、資料等が出てくると思います。判断材料を基にしながら絞っていったらなと今考えておりますので、その辺も踏まえまして、2回以降のスケジュールについて、事務局のほうからご説明願えますでしょうか。

③ 検討委員会の開催スケジュールと協議内容について

【資料3を基に事務局が説明】

○山口委員

現地調査というのは、私たちは含まれていないのですか。ここのスケジュールには視察の予定がどこにも載っていない。視察に行けば本当の姿を見ることができし、先生の話も聞けるし、栄養教諭の方の取組の話も聞けるし、行ったらよく分かると思います。

資料だけ配られても、そのときの様子が伝わらないと思います。忙しいし、コロナ禍で大変ですが、できれば全員で行きたいし、行かないなら、代表者だけ行って、録画してくれればとか、そういうので、直接見ることができて、分かりやすい説明が欲しいです。

あと、答申書を作成した後に会議はしないと言っていたが、やっぱりみんなで論議した方がいいと思います。よろしくお願いします。

○事務局

実は、検討資料を作成する段階では、コロナの緊急事態宣言がまさしく発令されている状態でして、その時点で、他市の視察というのをどこに入れるべきか、入れられるのかどうかということも含めて、少し悩ましいところがありました。ただ、ようやく落ち着いてきてまして、まだ先のことは分らないのですが、6月と11月の間に5か月ほどのあき期間がございますので、もし視察を入れるとしたら、2回と3回の間、ちょうど夏の期間に考えているのですが、委員の皆様、いかがでしょうか。

○山口委員

私は、もう少し早いほうがいいと思います。2回目までの間にできないですか。やっぱり見てみないと、意見も出せないと思います。みんな分からないことが多いので、もう少し早めに見て、それを見た上でいろんな意見が出てくると思います。6月から11月の間だと、2回目の会議がまた分からないまま始まって、検討したといっても、自校と給食センターの違いなどが分からないまま進んでしまうと思うので、その間にできないでしょうか。

○事務局

委員のお気持ちもよく分かりますので、実は、今年度も給食センターのほうから、調査研究を進める中で、何市か問い合わせもさせていただいて、センターについては、視察の依頼もさせていただきました。しかし、予定が本当に立たないために、給食センターというのは安全、衛生面を第一に考えているところなので、はっきりと断られています。これはコロナだからということです。申し訳ございません。

私たちも、今ご意見をいただいたということで、いち早く委員の皆様に先進市の視察については考えてまいりたいと思いますが、このコロナ禍、ましてや他市の状況もございますので、そこはひとつご理解いただきたい。私たちが幾ら努力したとしても、受け入れ先から断られてしまうとやはり困ってしまうところもございますので、大変申し訳ございません。ただ、おっしゃるとおり、実際の風景、様子、どんなところかというのもお示しする必要があるかなと思いますので、そこは一定努力させていただきたいと思います。

○車谷会長

例えば、視察に代わるような具体的に情報提供ができる資料であるとか、分かりやすいものをもしめご提供いただけましたら、考える一つの手だてになると思います。多分そういうご意見だと思いますので、

その辺は少しご検討いただけたらと思います。

大変長時間にわたりましてありがとうございました。本日の会議は第1回目ということで、手探り状況の中で委員の皆様の忌憚のないご意見が出てきたのではないかと思います。両方の方向性、全員給食、今の選択制、それぞれのメリット、デメリットも出きましたし、食育の観点でどうかということや、学校現場の生徒への指導の側面とか、現場の先生から教職員の負担のご意見も出てまいりました。タイムテーブルの面などもきちっと検討した上で意見を出していけたらと思いますので、次の会議までしばらく時間がございます。それぞれ委員の皆様におかれましても、そのあたりのお考えを進めて、子どもさんに聞くとか、そんな情報提供ももらってきて、第2回目に臨めていけたらと思います。そういう方向でよろしいですか。

○嶋田委員

言葉の定義について、安田理事に申し上げますが、先ほど先進市という言葉が使われましたよね。それは何に対して先進市ですか。ひょっとすると、ウィズコロナの状況を踏まえると、6ページの枚方と河内長野が先進市と呼ばれる可能性もなきにしもあらずですよ。なので、その言葉の定義をお示しいただいて、もしそこがはっきりしないようであれば、今後先進市という言葉は使わないようにしていただきたい。

○事務局

大変申し訳ございません。言葉の定義については、おっしゃるとおり、どこの市も先進、後進というのはないかと思います。ただ、全員給食またはそれに類する様々な方式については研究してまいりたいと思っております。申し訳ございませんでした。

○車谷会長

そうしましたら、いろんな課題が出てまいりました。次回以降の会議で、随時協議をしてまいりたいと思います。

3. 挨拶

4. 閉会